

○日本に輸入されたタヌキモ科植物 (小宮定志) Sadashi KOMIYA: Exotic species of the Lentibulariaceae in Japan

(Pletes II-III)

大正2年(1913), 横浜植木株式会社が *Pinguicula caudata* を上海から初めて輸入して以来, ヨーロッパからも園芸化された 2, 3 のタヌキモ科植物が導入された。第2次大戦後, 食虫植物研究会のメンバーによる外国種の輸入または直接自生地へおもむいての採集が盛んとなり, 陸続として多種類のタヌキモ科植物が導入されて栽培増殖が計られている。以下, 栽培されたことがある, または栽培されており同定のできた外国産タヌキモ科植物を紹介する(日本にも自生する種は省略し, アルファベティカルに配列した)。

1. *Pinguicula* (sect. *Pionophyllum*) **alpina** L., Sp. Pl. 17 (1753).

Syn. *P. alba* Kuehl ex Hoppe, Taschenb. 225 (1800). *P. alpestris* Pers., Syn. 1: 18 (1805). *P. brachyloba* Schult., Mant. 1: 167 (1822). *P. flavescens* Floerke ex Hoppe, Taschenb. 14 (1800). *P. gelida* Schur., Enum. Pl. Transs. 548. *P. pallida* Turcz., Bull. Soc. Nat. Mosc. 22: 288 (1849). *P. purpurea* Willd., Ges. Naturf. Fr. Neue Schr. 2: 112 (1799).

本邦産ムシトリスミレ (*P. vulgaris* L.) に似て, やや小形。花は白色で, 花筒部に黄色を帯びる。明治21年(1888)小石川植物園で栽培された記録が伝えられているが, 昭和9年(1934)鈴木吉五郎が種子を輸入し, 発芽させたものを発売した。以後, 幾度も種子または生苗で輸入されたが増殖していない。

[分布] スコットランド北部, アイスランド, スカンジナビア半島, アルプス山脈, ピレネー山脈, ソ連(中・北部, ウラル地方, シベリア), チベット, 中国西部, ヒマラヤ山脈, シッキム, カナダ(ラブラドル高原)

2. *Pinguicula* (sect. *Orcheosanthus*) **caudata** Schlecht, Linnaea 7: 393 (1832) —Pl. II-1.

Syn. *P. bakeriana* hort. in Gard. Chron. 1: 541 (1881). *P. flos-mulionis* E. Morr., Belg. Hort. 22: 371 (1872). *P. macrophylla* H. B. K., Nov. Gen. Sp. 2: 226 (1818). *P. moranensis* H. B. K., Nov. Gen. Sp. 2: 226 (1818). *P. oblongiloba* DC., Prodr. 8: 27 (1844). *P. orchidioides* DC., Prodr. 8: 27 (1844). *P. rosei* Watson, Gard. Chron. ser. 3. 49: 82 (1911).

花は桃色乃至紅紫色で, 花冠と萼は5深裂する。花冠は扁平で, 径5cmくらい, 上下2唇状をなす。上唇の2片は立ち, 下唇の3片は展開する。花筒はなく, 距が細長く垂下する。

大正2年(1913), 横浜植木株式会社が, ヨーロッパで増殖された株を上海を経由し

て輸入し販売したものが増殖し普及している。葉形などに可成りの変異がみられる。葉の幅が広く、花冠片の大きな在来型が 4 倍体 ($2n=44$, Casper¹⁾ 1962) で、自生する基本型は $2n=22$ であることが近藤勝彦²⁾ (1969) によって確められた。

[分布] メキシコ

3. *Pinguicula* (sect. *Orcheosanthus*) **clivorum** Standly et Steyererm., Publ. Field. Mus. Nat. Hist. Chicago Bot. 23: 179 (1944)—Pl. II-2.

前種に比べ小形。花冠の 5 裂片は狭く、紫色。

昭和 34 年 (1959) 浜田篤哉が、メキシコ東部オハカ州グアテマラ国境付近で採集し、鈴木吉五郎のもとへ送付した。翌年、開花したが、間もなく絶えた。

[分布] グアテマラ

4. *Pinguicula* (sect. *Isoloba*) **elatior** Michx., Pl. Bor.-Am. 1: 11 (1803)—Pl. II-3.

Syn. *P. austris* Chapm., Fl. S. U. S. 284 (1860). *P. caerulea* Walt., Fl. Carol. 63 (1788) partim.

葉はムシトリスミレ (*P. vulgaris* L.) に似る。花冠の 5 裂片は放射状に展開し、花筒と距が連なる、径 2.5 cm くらい、紫色で、退色する。各片の先端は凹入する。

昭和 2 年 (1927) 広瀬巨海が米国から初輸入したが、昭和 38 年 (1963) に輸入されたものが増殖し普及している。

[分布] 米国 (ノースカロライナ〜フロリダ)

5. *Pinguicula* (sect. *Pionophyllum*) **grandiflora** Lam., Encyc. 3: 22 (1791).

Syn. *P. longifolia* Ram. ex DC., Fl. Fr. ed. 3. 3: 728 (1805).

昭和 5 年 (1930) 蘭峰植物研究所で発売した記録がある。また、昭和 36 年 (1961) 小石川植物園にハバナから生苗が輸入されたが、絶種した。

[分布] ジュラ山脈、アルプス山脈 (ヘルベチア地方)、ピレネー山脈、アイルランド、オーストリア、北米北西部

6. *Pinguicula* (sect. *Orcheosanthus*) **gypsicola** T. S. Brandegee, Univ. Calif. Publ. Bot. 4: 190 (1911)—Pl. II-4.

葉は両側から巻込んで棒状をなす。花冠は 5 深裂し、紫色、径 2~3 cm、短い花筒がある。

昭和 30 年 (1955) 越川幸雄がミュンヘン植物園から輸入したものが増殖し普及している。

[分布] メキシコ (サンルイスポシ州)

7. *Pinguicula* (sect. *Isoloba*) **heterophylla** Benth., Pl. Hartw. 70 (1840).

小形の植物、葉の長さ 1~2.5 cm、幅 2~3 mm。花冠は鐘形に開き、白色。

昭和 41 年 (1966) テネシー大学調査隊によって採集された生苗が、近藤誠宏のもと

に送付された。

[分布] メキシコ (オハカ州)

8. *Pinguicula* (sect. *Pionophyllum*) **leptoceras** Reichb., Pl. Crit. 1: 69.

Syn. *P. corsica* Bernard et Gren. ex Gren. et Godr., Fl. Fr. 2: 443. *P. grandiflora* Koch, Syn. Fl. Germ. ed. 1. 579, non Lam. *P. Hellwegeri* Murr ex Hegi, Ill. Fl. Mitt.-Eur. 6: 161 (1918).

やや小形の植物。花は淡紫色乃至桃色。

昭和9年(1934) 鈴木吉五郎が種子を輸入し、育成のうえ発売したが(*P. corsica* の名で)、現在は絶種した。

[分布] アルプス山脈(ドイツ側, ヘルベチア, ベデモンチ地方), コルシカ島, シェラネバダ

9. *Pinguicula* (sect. *Isoloba*) **lusitanica** L., Sp. Pl. 17 (1753)—Pl. II-5.

Syn. *P. alpina* Berger., Fl. Bass. Pyr. 1: 17, non L. *P. subaequalis* Stokes, Bot. Comment. 1: 123. *P. villosa* Huds., Fl. Angl. 8 (1762), non L.

葉は楕円形で、明らかな柄部をもつ。花は長さ 0.7~1.2 cm で、花冠は余り展開せず、白色、花筒から距にかけて紅紫色を帯ぶ。

昭和2年(1927) 小石川植物園に、コインブラ植物園から種子が送られ、育成されたものが増殖し普及されている。

[分布] ポルトガル, スペイン, イングランドとスコットランドの西部

10. *Pinguicula* (sect. *Isoloba*) **lutea** Walt., Fl. Carol. ed. 2. 63 (1788)—Pl. II-6.

Syn. *P. campanulata* Lam., Journ. Hist. Nat. Par. 1: 336 (1792). *P. eduntula* Hook., Exot. Fl. t. 16 (1824).

やや大形。葉は長卵形で、長さ 3~7 cm。花茎は長く 15~30 cm。花冠は径 2~4 cm で、鮮黄色、5裂片がほぼ放射状に展開し、各片は不規則に 2~4 の欠刻をもつ。

昭和29年(1954) 齋藤常夫が種子を輸入し、発芽させたが枯死した。昭和39年(1964) 英清道がノースカロライナで採集し送付してきたものが増殖し普及している。

[分布] 米国(ノースカロライナからフロリダ, ルイジアナ州)

11. *Pinguicula* (sect. *Isoloba*) **pumila** Michx., Fl. Bor.-Am. 1: 11 (1803).

Syn. *P. australis* Nutt., Journ. Acad. Philad. 7: 103 (1834). *P. caerulea* Walt., Fl. Carol. 63 (1788) partim. *P. floridensis* Chapm., Fl. S. U. S. suppl. 635.

小形の植物。葉の長さ 1~2.5 cm。花冠は鐘形で、径 1~2 cm, 白色または紅紫色。

昭和29年(1954) 齋藤常夫が種子を輸入し、発育したが枯死した。その後、幾度も導入されたが、増殖に成功していない。

[分布] 米国 (サウスカロライナからフロリダ, テキサス州), パナマ諸島

12. *Pinguicula* (sect. *Pionophyllum*) *villosa* L., Sp. Pl. 17 (1753).

Syn. *P. acutifolia* Michx., Fl. Bor.-Am. 1: 11 (1803). *P. involucrata* DC., Prodr. 8: 30 (1844), sphalm. *P. involuta* Schranck, Denkschr. Bot. Ges. Regensb. 2: 3 (1818), non Ruiz et Pav.

葉, 花ともにコウシンソウ (*P. ramosa* Miyoshi) によく似ている。この種を母種とする考えもあるが (Tamura³⁾ 1953), コウシンソウと違って, 花茎は分岐しない。花は淡紅紫色または白色。

樺太にも自生 (1925年に発見) していたため, 戦前からしばしば持ち込まれ, 昭和 11年 (1936) には発売された記録も残されている。昭和 42年 (1967) テネシー大学調査隊がアラスカで採集した生苗を近藤勝彦へ送付してきたが, 栽培に成功しなかった。

[分布] グリーンランド, スカンジナビア半島北部, シベリア, アラスカ, カナダ北部, サハリン, 中国北東部 (大興安嶺, Kira 1942 ex Kitagawa⁴⁾ 1943)

13. *Polypompholyx multifida* (R. Br.) F. Muell., Fragm. 6: 162 (1868).

Syn. *Utricularia latiloba* Benth., Enum. Pl. Hueg. 82 (1837). *U. multifida* R. Br., Prodr. 432 (1810). *Polypompholyx Endlicheri* Lehm., Nov. Strip. Pugill. 8: 48 (1844). *P. latiloba* Lehm., Nov. Strip. Pugill. 8: 49 (1844).

湿地生をやや大形の植物。花茎は高さ 10~30 cm, 鱗片がなく, 苞と小苞は小さく, 基部で着生する。萼が4裂し, 花冠は5深裂して上下2唇状をなす。上唇の2片は小さく, 立ち上り, 下唇の3片は広大で垂下する, 桃色。花冠の仮面部は小さく, 黄色。

昭和 41年 (1966) 近藤勝彦が, パース市郊外で採集し持ち帰ったが, 増殖しない。

[分布] オーストラリア南西部沿岸地方

14. *Utricularia* (sect. *Orchidioides*) *alpina* Jacq., Enum. Carib. 11 (1760)—figs. 1-3. Pl. II-7.

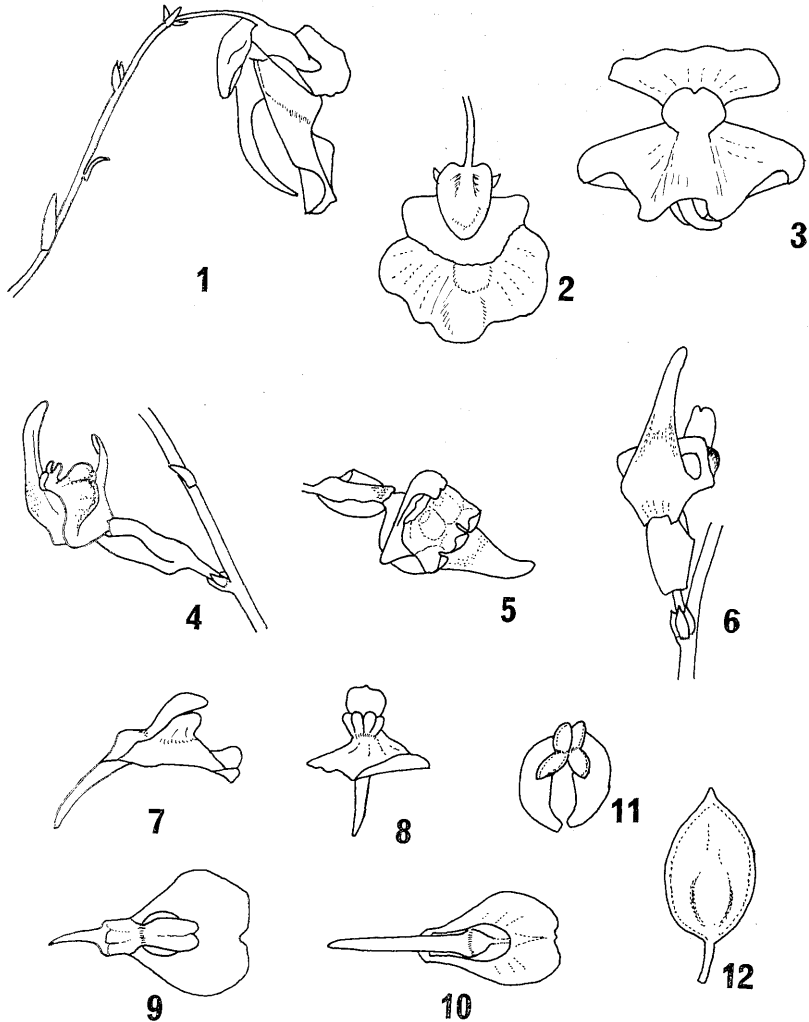
Syn. *U. endresii* Reichb., Gard. Chron. 2: 582 (1874). *U. grandiflora* Pers., Syn. 1: 18 (1805). *U. montana* Jacq., Select. Am. 7. *U. unifolia* Ruiz et Pav., Fl. Per. Chil. 1: 20 (1802).

樹幹に着生する多年草で, 大形の白花を1~数個つける。萼はほぼ等しく上下2唇に分れる。花冠も2唇状をなすが, 下唇が大きく, 径 3~4 cm, 上唇はやや小さく, 重なるように黄色を帯びた仮面部を覆いかぶす。捕虫袋は円形で, 口辺に簡単な2本の突起をのぼす。

昭和 11年 (1936) 森田俊彦が英国から持ち込んで以来, 幾度も輸入され, 増殖して普及されている。

[分布] 西インド諸島, 中米, 南米北部

15. *Utricularia* (sect. *Pleiochasia*) *dichotoma* Labill., Nov. Holl. Pl. 1: 11.



Figs. 1-3. *Utricularia alpina*, flowers. $\times 2/3$. 1, lateral view; 2, dorsal view; 3, abaxial view.
 Figs. 4-6. *Utricularia lateriflora*, flowers. $\times 5$. 4, lateral view; 5, dorsal view; 6, ventral view.
 Figs. 7-12. *Utricularia prehensilis*. 7, flower, lateral view. $\times 2$. 8, flower, abaxial view. $\times 2$. 9, flower, dorsal view. $\times 2$. 10, flower, ventral view. $\times 2$. 11, stamens. $\times 10$. 12, capsule. $\times 4$.

(1806).

Syn. *U. moorei* Lloyd, Vict. Nat. 53: 107 (1936). *U. oppositiflora* R. Br., Prodr. 430 (1810). *U. oppositifolia* Spreng., Syst. 1: 50 (1824). *U. speciosa* R. Br., Prodr. 430 (1810). *U. uniflora* R. Br., Prodr. 431 (1810).

花茎は高さ 5~30 cm で、先端に 1~数花を輪生につける。花冠は紫色、下唇が広大で、径 1.5~2.5 cm。花茎に鱗片はないが、苞と 2 つの小苞があり、基部は離生する。

昭和 41 年 (1966) 近藤勝彦がブリスベーン市郊外で採集し、持ち帰ったが、増殖していない。

[分布] オーストラリア東部、南部、タスマニア

16. *Utricularia* (sect. Orchidioides) *dusenii* Sylven, Arkiv. Bot. Stockh. 8: 30 (1908)—Pl. III-9.

着生または湿地生の多年草。根茎にしばしば膨大部 (tuber) がある。葉はさじ状腎形で、長さ 5~10 mm、幅 3~4 mm。捕虫袋は扁円形で、2 本の単純な rostra をもつ。花茎は高さ 8~15 cm で、1~3 花をつける、概して鱗片はなく、苞と小苞は基部で着生する。花冠は紫色で、径 10~15 mm。全体的に、*U. reniformis* によく似ているが、小形である。同一種とする見解もある (Komiya⁵⁾ 1970)。

昭和 41 年 (1966) 近藤誠宏がミュンヘン植物園より輸入した。その後、幾人かによっても導入され、増殖している。

[分布] ブラジル

17. *Utricularia* (sect. Parcifolia) *gibba* L. subsp. *gibba* P. Taylor, Mitt. Bot. Staatss. Munch. 4: 98 (1961) & in Hutch. et Dalz., Fl. W. Trop. Afr. ed. 2. 2: 381 (1963) & Kew Bull. 18: 198 (1964)—Pls. II-8 & III-10.

Syn. *U. anomala* St. Hil. et Girard, Ann. Sci. Nat. ser. 2. 11: 153 (1839). *U. aphylla* Ruiz et Pav., Fl. Peruv. 1: 20 (1798). *U. bifidocalcar* Good, Journ. Bot. 62: 161 (1924). *U. biflora* Lam., Ill. 1: 50 (1791). *U. bipartita* Ell., Sketch. 1: 22 (1816). *U. emerginata* Benj., Linnaea 20: 489 (1847). *U. fibrosa* Walt., Fl. Carol. 64 (1788). *U. fornicata* Le Conte, Ann. Lyc. Nat. Hist. N. Y. 1: 75 (1824). *U. gayana* DC., Prodr. 8: 9 (1844). *U. gibba* L., Sp. Pl. 18 (1753). *U. gracilis* H. B. K., Nov. Gen. Sp. 2: 225 (1818). *U. longilostriis* Le Conte in Ell. Sketch. 1: 21 (1916). *U. macrorrhyncha* Barnh., Bull. Torr. Bot. Cl. 1895: 511 (1898). *U. obtusa* Sw., Prodr. Veg. Ind. Occ. 14 (1788). *U. pallens* St. Hil. et Girard, Ann. Sci. Nat. ser. 2. 11: 153 (1839). *U. parkeriana* DC., Prodr. 8: 9 (1844). *U. pumila* Walt., Fl. Carol. 64 (1788). *U. secunda* Benj., Linnaea 20: 308 (1847). *U. spirandra* Wright ex Griseb.,

Cat. Pl. Cub. 161 (1866). *U. striata* Le Conte, Ann. Lyc. Nat. Hist. N. Y. 1: 75 (1824). *U. tenuifolia* Benj., Linnaea 20: 304 (1847). *U. tenuis* Cav., Ic. 5: 24 (1799). *U. tricrenata* Bak. ex Hiern, Cat. Afr. Pl. Welw. 1: 785 (1900).

本邦産イトタヌキモ (*U. gibba* L. subsp. *exoleta* P. Taylor) の母種とされるもので、花は大きく、径 1~2 cm。水中茎につく葉は 1~3 回叉状に分れ、捕虫袋を散生する。地中茎には萎縮した葉と多数の捕虫袋をつける。袋は扁円形で、2~4 本の糸状の *rostra* と多分岐した *antennae* をもつ (Pl. III-10)。種子には平たい翼片が付属する。

1930 年代に、熱帯魚に付着してアメリカから輸入され、増殖し普及している。名古屋市周辺に野生化しているものもみられる。

[分布] 北米の東部と南部、南米 (アルゼンチンまで)、アフリカ (西部を除く)

18. *Utricularia* (sect. *Calpidisca*) *lateriflora* R. Br., Prodr. 431 (1810)—figs. 4-6 & Pl. III-11.

Syn. *U. calliphysa* Stapf, Journ. Linn. Soc. Bot. 42: 115 (1914). *U. minutissima* Vahl, sensu Erickson, Plants of Prey, 82 (1968). *U. parviflora* R. Br., Prodr. 431 (1810).

葉は線状へら形、長さ 4~10 mm。捕虫袋はヒメミミカキグサ (*U. nipponica* Maki-no) に似て腹面に *apron* をもつが、やや長楕円形で、外壁及び地中茎にある腺は球形 (Pl. III-11)。花茎の高さ 6~8 cm で、2~数花をつける。鱗片は三角状くさび形で、苞または小苞と共に基部で着生する。小梗は 1 mm 長くらいで、萼は開かず筒状のままのものもある。花は白色で、長さ 3~6 mm、花冠上唇は小さく、長さ 2 mm、幅 1 mm くらい。下唇は長さ 1 mm、幅 2.5 mm くらいで、3 深裂している。中片がやや大きめで、それぞれの先端は円頭で、上方へ反り返っている。仮面部は幅広く、淡紫色を帯び、中央に白色の 2 塊が凸出し、その上縁に橙黄斑をもつ。距は大きく、円錐形で突出し、長さ 4 mm くらい。

Erickson⁶⁾ (1968) は *U. calliphysa* を *U. minutissima* のシノニムとしているが、それは間違いで、*U. minutissima* は sect. *Nigrescentes* に属するものである。

昭和 43 年 (1968) 倉田重夫が北ボルネオ、サンダカンにて採集し、その後また、昭和 44 年 (1969) 豊島正己がカンボジアにて採集し、持ち帰ったものが増殖している。

[分布] オーストラリア東部~南部、タスマニア、北ボルネオ、カンボジア

19. *Utricularia* (sect. *Calpidisca*) *livida* E. Meyer, Comm. Pl. Afr. Austr. 281 (1837); P. Taylor, Kew Bull. 18: 115 (1964)—Pl. III-12.

Syn. *U. afromontana* R. E. Fries, Notizbl. Bot. Gart. Berl. 8: 703 (1924). *U. denticulata* Benj., Linnaea 20: 492 (1847). *U. dregei* Kam., Bot. Jahrb.

33: 94 (1902). *U. eburnea* R. E. Fries, Wiss. Ergeb. Schwed. Rhod.-Kongo-Exped. 1911-12, 1: 297 (1916). *U. elevata* Kam., Bot. Jahrb. 33: 99 (1902). *U. engleri* Kam., Bot. Jahrb. 33: 95 (1902). *U. gentryi* Standley, Publ. Field Mus. Nat. Hist. Bot. 22: 48 (1940). *U. humbertiana* Perrier, Mem. Inst. Sci. Madag. ser. B. 5: 194 (1955). *U. humilis* Phillips, Ann. S. Afr. Mus. 16: 230 (1917). *U. ibarensis* Baker, Journ. Linn. Soc. Bot. 21: 427 (1885). *U. lobata* Fernald., Proc. Amer. Acad. 11: 57 (1905). *U. longecalcarata* Benj., Linnaea 20: 492 (1847). *U. madagascariensis* DC., Prodr. 8: 20 (1844). *U. mauroyae* Perrier, Mem. Inst. Sci. Madag. ser. B. 5: 200 (1955). *U. odontosperma* Stapf in Dyer Fl. Trop. Afr. 4: 474 (1906). *U. sanguinea* Oliv., Journ. Linn. Soc. Bot. 9: 153 (1865). *U. sematophora* Stapf, Bot. Jahrb. 40: 60 (1907). *U. sparitoides* Scott Elliot ex Perrier, Mem. Inst. Sci. Madag. ser. B. 5: 196 (1955). *U. sparteae* Baker, Journ. Linn. Soc. Bot. 20: 216 (1883). *U. transrugosa* Stapf in Dyer Fl. Cap. 4: 428 (1904).

葉はさじ形または腎形で円頭，長さ 4~20 mm，幅 1~5 mm。花茎は高さ 2~30 cm で，基部で着生する鱗片，苞，小苞をもつ。花冠は径 5~15 mm，桃色から暗紫色，または白色。捕虫袋は単一で長い腺毛を縁生した rostrum をもち，同様な腺毛を縁生する突出した口部下端とで 2 唇状をなす。

昭和 34 年 (1959) 浜田篤哉が，メキシコ・オワカ州高原で採集した種子から育成され，増殖普及した。初め，*U. denticulata* と同定したが (Komiya⁷⁾ 1967,⁶⁾ 1970)，P. Taylor⁸⁾ (1964) の判断に従って，アフリカ種と同一種とした。

[分布] アフリカ東部から南ア連邦，マダガスカル，中米 (メキシコ，ガテマラ)

20. *Utricularia* (sect. *Orchidioides*) **longifolia** Gardn. in Hook. Lond. Journ. Bot. 1: 545 (1842).

地中茎に膨大部はない。葉は有柄，狭卵状披針形で円頭，長さ 10~40 cm，幅 2~4 cm。捕虫袋は扁円形で，2 叉状の太い rostrum をもつ。袋内の吸収毛は 4 叉状。花茎は基部で着生する鱗片，苞，小苞をもつ，高さ 40~60 cm で，5~10 花を疎な総状につける。花は紫色で，径 2~2.5 cm。

昭和 40 年 (1965) 鈴木吉五郎がコペンハーゲン植物園から輸入したものが，増殖し普及している。

[分布] ブラジル

21. *Utricularia* (sect. *Stomaisia*) **prehensilis** E. Meyer, Comm. Pl. Afr. Austr. 282 (1837)—figs. 7-12. & Pl. III-13.

Syn. *U. hians* DC., Prodr. 8: 25 (1844). *U. huillensis* Welw., ex Kam. Bot. Jahrb. 33: 103 (1902). *U. lingulata* Baker, Journ. Linn. Soc. Bot. 20:

216 (1883). *U. quadricarinata* Suess., Trans. Rhod. Sci. Ass. 43: 119 (1951).

ミミカキグサ (*U. bifida* L.) に似て、やや大形の植物。花茎は高さ 5~35 cm で、1~8 花をつける。鱗片、苞、小苞は基部で着生する。花冠は黄色で、径 8~10 mm、仮面部が顕著に突出し、縦溝が通って分節され、横に 4 丘状をなす。距は著しく後出して、細長い円錐形、尖頭、長さ 6 mm くらい。萼は花後も生長する。

昭和 45 年 (1970) 渥美比呂志がミュンヘン植物園から輸入した *Drosera madagascariensis* の根元に付着していたものから育成された。

[分布] アフリカ東部と南ア連邦, マダガスカル

22. *Utricularia* (sect. *Orchidioides*) **reniformis** St. Hil., Voy. Minas Geraes. 1: 224—figs. 13—17.

Syn. *U. maxima* G. Weber ex Benj. in Mart. Fl. Bras. 10: 249 (1851).
U. nelumbifolia Gardn. in Hook. Ic. Pl. t. 505 (1842).

樹幹などに着生する大形の多年草。地中茎は太いが tuber はない。葉は腎形または円形で、径 15 cm にも達する。全緑で、長さ 12~33 cm の葉柄をもつ捕虫袋は円板状で、rostrum は 2 本の単純な角状で腹側へ屈折する。吸収毛は 4 叉状。花茎は高さ 60 cm に達し、多花をつける、狭披針形の鱗片と苞をもつ、小苞は線状披針形で、3 者とも基部で着生する。花冠は淡紫色で、径 4~5 cm、上唇はほぼ円形で、上端が 2 裂する、下唇は巾広く、3 片状にくびれ、両側片が大きな楕円形、長径が 2.5 cm くらい、中片は小さく、盛り上って距を包む。距は長さ 2~2.5 cm。仮面部は球形で高さ 1.5 cm くらい、前面中央に縦溝が通って 2 分される、各片に鮮黄色の隆起が縦に平行して走る。

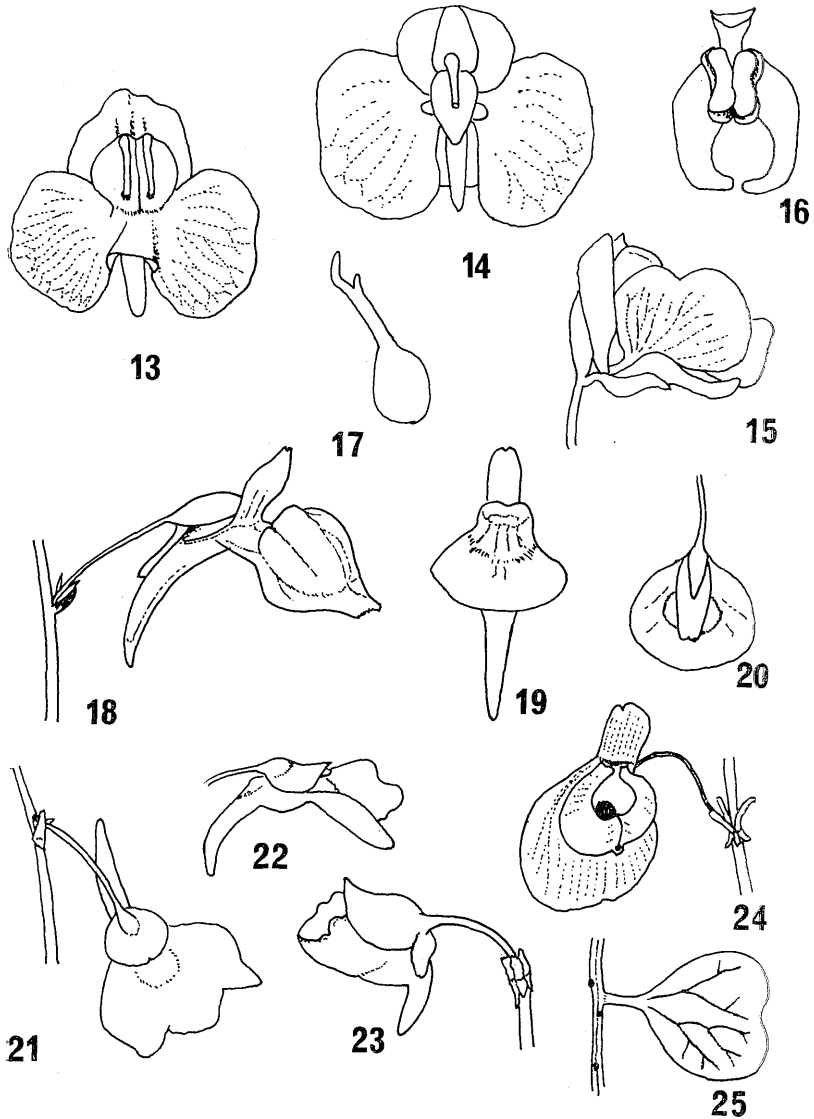
昭和 41 年 (1966) 近藤勝彦が、また、昭和 44 年 (1969) 渥美比呂志がミュンヘン植物園から入手したものが増殖している。

[分布] ブラジル

23. *Utricularia* (sect. *Stomoisia*) **reticulata** Sm., Exot. Bot. 2: 119 (1804)—figs. 18—20. & Pl. III—14.

Syn. *U. caerulea* Heyne ex Wall. Cat. sub. n. 1493 (1829), non L. *U. graminifolia* J. Grah., Cat. Pl. Bomb. 165 (1839). *U. humilis* Heyne ex Wall. Cat. n. 1495 (1829). *U. oryzetorum* Miq. ex C.B. Clarke in Hook. f. Fl. Brit. Ind. 4: 331 (1885). *U. polygaloides* Edgew., Proc. Linn. Soc. 1: 351 (1847). *U. spiricaulis* Miq. ex Oliv., Journ. Linn. Soc. Bot. 3: 180 (1859). *U. stricticaulis* Stapf ex Gamble, Fl. Madras 981 (1924). *U. uliginosa* Vahl., Enum. 1: 203 (1804).

葉は線形または狭へら形。捕虫袋はほぼ円板形で、rostrum は 2 本の短い棒状、吸収毛は 2 叉状で一線上に並ぶ。花茎は高さ 7~40 cm で、多花をつける。鱗片と苞は



Figs. 13-17. *Utricularia reniformis*. 13, flower, abaxial view. $\times 4/5$. 14, flower, ventral view. $\times 4/5$. 15, flower, lateral view. $\times 4/5$. 16, stamens and pistil. $\times 10$. 17, pistil. $\times 10$. Figs. 18-20. *Utricularia reticulata*, flower. 18, lateral view. $\times 6$. 19, abaxial view. $\times 4$. 20, dorsal view. $\times 4$. Figs. 21-25. *Utricularia striatula*. 21, flower, dorsal view. $\times 6$. 22, flower, lateral view. $\times 6$. 23, imperfect flower, lateral view. $\times 8$. 24, capsule, abaxial view. $\times 10$. 25, leaf. $\times 4$.

卵形で、小苞は糸状、3者とも基部で着生する。萼は狭披針形で、長さ3~4 mm、巾1.5 mm くらい、結実後も伸長して巾広い卵形となり、長さ8 mm に達する。花冠は淡青色または淡紅紫色、または白色、上唇は長楕円形で、長さ3 mm くらい、先端は凹頭、下唇はほぼ円形で、巾5 mm くらい、ヘルメット状に隆起して大きな仮面部を形成する。仮面部には不規則な3本の紫条が縦に走る。

昭和40年(1965)鈴木吉五郎がエジンバラ植物園から輸入したものが、増殖し普及している。

[分布] インド東部から南部、セイロン

24. *Utricularia* (sect. *Meloneura*) *striatula* Sm. in Rees Cyc. 37, no. 17 (1819); P. Taylor in Hutch. et Dalz Fl. W. Trop. Afr. ed. 2. 2: 378 (1963)—figs. 21-25. & Pl. III-15.

Syn. *Meloneura purpurea* Raf., Fl. Tellur. 4: 109 (1838). *M. striatula* (Sm.) Barnh., Mem. N. Y. Bot. Gard. 6: 50 (1916). *Utricularia anthropophora* Ridley, Journ. F. M. S. Mus. 6: 165 (1915). *U. bicornis* Hayata Mss. in Herb. Tokyo Univ. *U. brachiata* Oliv., Journ. Linn. Soc. Bot. 3: 187 (1859). *U. furcellata* Oliv., Journ. Linn. Soc. Bot. 3: 189 (1859). *U. flochidiata* Wight in Hook. Kew Journ. Bot. 1: 373 (1849). *U. orbiculata* Wall. ex DC., Prodr. 8: 18 (1844); Matsum. et Hayata, Journ. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo 22: 285 (1906). *U. philetas* Good, Journ. Bot. 62: 163 (1924). *U. pusilla* Grah., Cat. Pl. Bomb. 165 (1839), non Vahl. *U. rosulata* Benj. Linnaea 20: 310 (1847). *U. taikankoensis* Yamamoto, Journ. Soc. Trop. Agric. 3: 241 (1931).

岩や樹上に着生する。葉は倒卵形または円形(または腎形)で、巾1~6 mm。捕虫袋は扁卵形または扁円形で、径0.6~0.8 mm、2分して横に拡がった rostrum は長い腺毛で縁どられている、吸収毛は4叉状。花茎は細い毛状で、高さ2~15 cm、1~10花をつける。鱗片、苞、小苞とも卵状披針形で、長さ1.5~2 mm、いずれも基部が離生する。萼の上片は大きな円形、下片は極端に小さい。花冠は白色または淡紅色で、仮面部に黄斑をもつ、長さ3~6 mm。花冠上唇はごく小さく、下唇はほぼ円形で、巾3~10 mm、前縁が3分する。距は垂下し、長さ4 mm くらい。完開しない花も多く、直射日光が1時間以内しか当たらない場所では閉鎖花になるともいう(Killian⁹⁾, 1953)。

昭和42年(1967)著者が台湾で採集し持ち帰ったものが、増殖し普及している。

[分布] アフリカ熱帯域、インド東部、セイロン、インドシナ半島、ジャワ、ボルネオ、ニューギニア、フィリピン、台湾

25. *Utricularia* (subgen. *Setiscapella*) *subulata* L., Sp. Pl. 18 (1753); P.

Taylor, Kew Bull. 18: 81 (1964)—Pl. III-16.

Syn. *U. angolensis* Kam., in Engl. Bot. Jahrb. 33: 104 (1902). *U. bradei* Markgraf, Fedde Repert. 57: 243 (1955). *U. capillaris* Hoffmg. ex Roem. et Schult., Syst. 1: 199 (1817). *U. cleistogama* (A. Gray) Britt., Trans. N. Y. Acad. Sci. 9: 12 (1889). *U. filiformis* Roem. et Schult., Syst. 1: 199 (1817). *U. media* Salzm. ex St. Hil. et Girard, Ann. Sci. Nat. ser. 2. 11: 155 (1837). *U. multiflora* Afz. ex Kam. in Engl. Bot. Jahrb. 33: 93 (1902). *U. nervosa* Web. ex Benj. in Mart. Fl. Bras. 10: 248 (1851). *U. perpusilla* DC., Prodr. 8: 25 (1844). *U. rendlei* Lloyd, Journ. Bot. 73: 42 (1935). *U. setacea* Michx., Fl. Bor.-Am. 1: 12 (1803). *U. tenuiscapa* Pilger, Not. Bot. Gart. Berl. 6: 191 (1914). *U. triloba* Good, Journ. Bot. 62: 162 (1924), non Benj.

葉は線形で、長さ 1~2 cm, 巾 0.5 mm くらい。捕虫袋は卵形で、長さ 0.2~0.5 mm, rostrum は 2 分し、それぞれ数本の長い多細胞の毛を分出する。花茎は細い毛状で、高さ 5~25 cm, 幾分ジグザグ状に 3~20 花をつける。鱗片は狭楕円形で、長さ 1 mm くらい、短毛がある。苞は巾広く、無毛。いずれも基部が離生する。小苞はない。花は黄色または白色で、しばしば紫条がある、長さ 6~10 mm, 花冠上唇は広楕円形、下唇はずっと大きくて 3 裂する。仮面部は顕著で、くびれて 2 つの半球形をなす。距はやり形。閉鎖花になることが多く、その花冠は白色で、長さ 2 mm くらいしかない。

昭和 38 年 (1963) 近藤誠宏が米国より輸入した *Sarracenia* に付着して渡来した。また、昭和 39 年 (1964) 英清道が、ノースカロライナで採集した *Pinguicula lutea* に付着して渡来したものが増殖し普及している。

[分布] 北米 (ノバスコチアからフロリダ、テキサス州まで)、中米、西インド諸島、南米 (アルゼンチンまで)、アフリカ、マダガスカル、インドシナ半島、ボルネオ

(日本歯科大学生物学教室)

Summary

Since 1913, many exotic species of the Lentibulariaceae had been introduced to Japan, especially most of them were introduced by the members of Insectivorous Plant Society after 2nd World War. In this paper I report 25 exotic species identified which have been introduced and cultivated in Japan. Other introduced species which common to the species native in Japan are omitted. *Utricularia lateriflora* and *U. prehensilis* were identified most recently by the author. They are native to Cambodia and Madagascar respectively.

References

- 1) Casper, S. J. (1962) Feddes Rep. Spec. Nov. 66: 1-148. 2) Kondo, K. (1969) Bull. Torr. Bot. Cl. 96: 322-328. 3) Tamura, M. (1953) Acta Phyt. Geob. 15: 31. 4) Kitagawa, M. (1943) J. J. B. 19: 111. 5) Komiya, S. (1970) Seibundo's Encycl. Hort. 6: 3077. 6) Erickson, R. (1968) Plants of Prey p. 82. 7) Komiya, S. (1967) Quad. Insect. Pl. Soc. no. 40: 6. 8) Taylor, P. (1964) Kew Bull. 18: 115-127. 9) Killian, C. (1953). Bull. I. F. A. N. 15: 72-82.

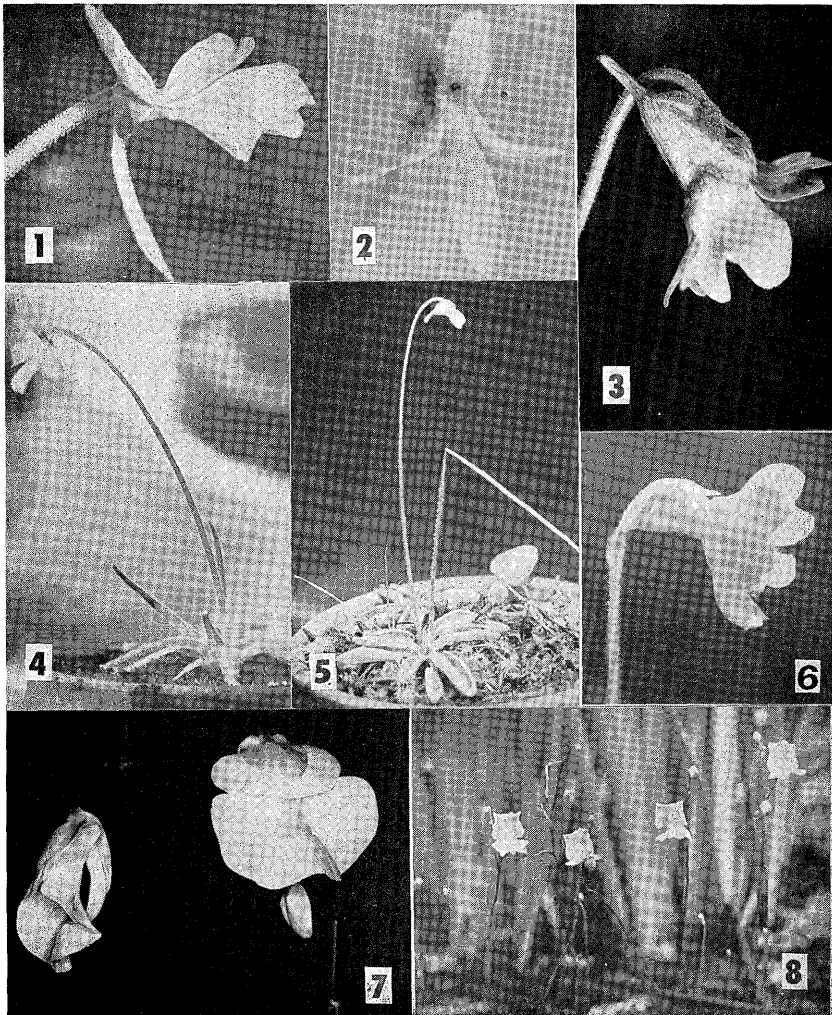
Explanation of Plates II—III.

- Pl. II. Flowers. 1, *Pinguicula caudata* (×1); 2, *P. clivorum* (×1); 3, *P. elatior* (×1.2); 4, *P. gypsicola* (×1/2); 5, *P. lusitanica* (×1/2); 6, *P. lutea* (×1); 7, *Utricularia alpina* (×1/2); 8, *U. gibba* ssp. *gibba* (×1/2).
- Pl. III. Bladders. 9, *Utricularia dusenii* (×30); 10, *U. gibba* ssp. *gibba* (×30); 11, *U. lateriflora* (×40); 12, *U. livida* (×40); 13, *U. prehensilis* (×30); 14, *U. reticulata* (×30); 15, *U. striatula* (×40); 16, *U. subulata* (×40).

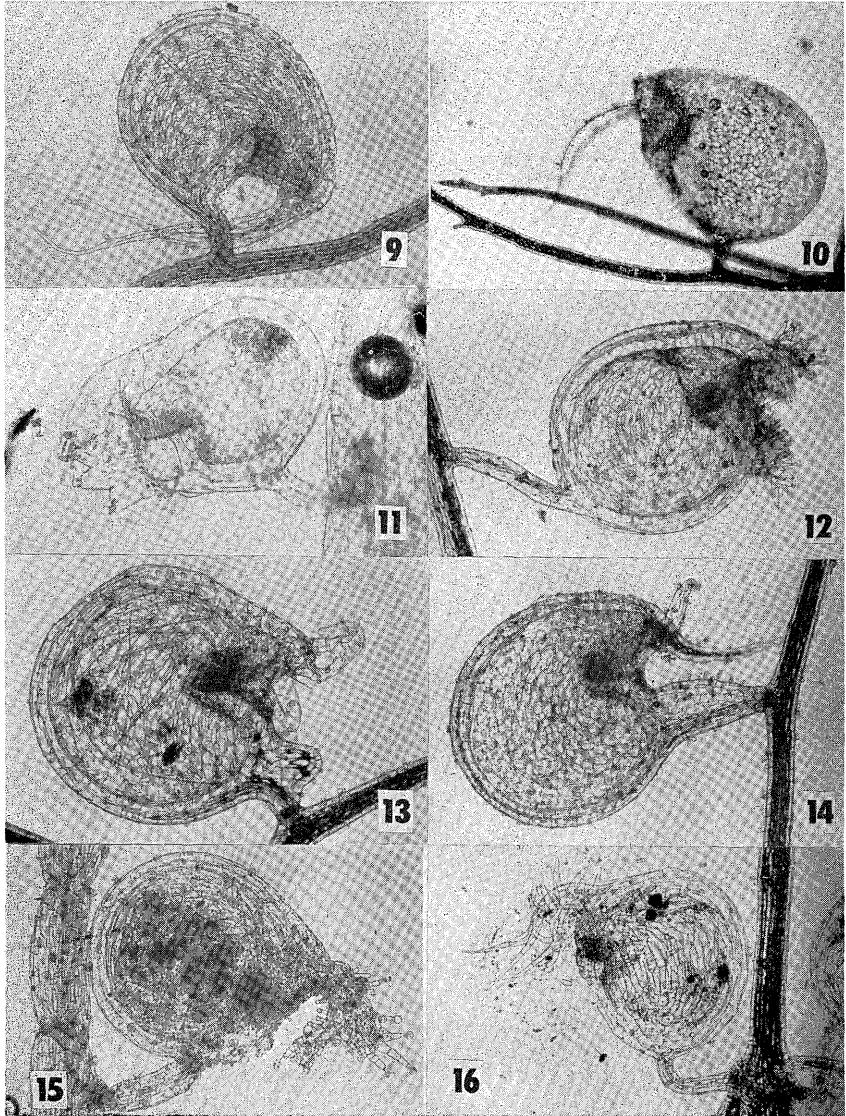
○クロウメモドキ属とその近縁植物の根皮の色について (岡田 稔) Minoru OKADA: The colour of root-bark in the genus *Rhamnus* and allied genera.

クロウメモドキ科のクロウメモドキやクロツバラの果実は鼠李子と称して漢薬に用いられ、ヨーロッパでは同じ科のラムヌス実やフラングラ皮、アメリカではカスカラサクラダ皮、すべて瀉下薬や製薬原料に用いられている。筆者は日本の生薬市場に出廻っている内外産品を比較検討する為、内地産のクロウメモドキ属植物数種を採集し、果実と樹皮とを剖見した。その際に別属とされることもあるイソノキだけが根皮の色が異なる事に気付いた。そこで此の点を比較する為に他属の数種をも含めて次ページの表を作った。

Species	Colour of root-bark	Locality
<i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>decipiens</i> Maxim. クロウメモドキ	black	Mt. Tenso (Okutama, Tokyo)



Sadashi KOMIYA: Exotic species of the Lentibulariaceae in Japan



Sadashi KOMIYA: Exotic species of the Lenticulariaceae in Japan